

## 乳牛の乾乳期間を 40 日に短縮しても 分娩状況、乳生産性、繁殖性に影響しない

乾乳期間は従来から 60 日間が推奨されていますが、近年のホルスタイン種の泌乳能力が飛躍的に向上したため、分娩 60 日前でも 20kg/日以上以上の乳量があります。乾乳期間の短縮が可能になれば、搾乳期間の延長による乳生産量の増加が見込まれます。また、分娩後の泌乳曲線の平準化も示唆されており、その結果として分娩後の疾病発生の低減や繁殖成績向上の可能性がります。そこで、乾乳期間の短縮が分娩状況、泌乳成績、繁殖成績等に与える影響について検討しました。

### ☆ 技術の概要

1. 供試牛は 5 県（岐阜県、千葉県、富山県、兵庫県、熊本県）の公設試飼養の 2 産以上かつ分娩予定 60 日前に約 20kg 泌乳のホルスタイン種経産牛です。乾乳期間を 40 日に設定した牛群 21 頭（試験区）と乾乳期間を 60 日に設定した牛群 20 頭（対照区）とで、分娩状況、乳生産性、繁殖性等について比較検討しました。
2. 乾乳前の産乳成績は両区に差はありません。実乾乳期間は試験区 40.7 日、対照区 61.4 日です。乾乳期短縮による搾乳期間延長分（乾乳前 3 週間）の乳生産量は 325kg です。
3. 分娩難易度、子牛生時体重、母牛の初乳の比重、IgG（抗体）濃度には差がありません。
4. 分娩後 43 週乳量、乳成分、及び最高乳量、最高乳量到達日についても差はなく泌乳曲線への影響は無いと考えられます。また、初回発情までの日数、受胎率等にも差がありません。

表 1 分娩状況と繁殖状況

	分娩頭数	分娩難易度	子牛体重 Kg	初乳の比重	初乳の IgG量 mg/ml	初回 発情 日数	受胎率 %	
							180日まで	305日まで
試験区	21	1.59	46.7	1.054	62.66	56	72.2	94.7
対照区	20	1.66	45.3	1.055	67.37	54	69.2	93.3

表 2 産乳成績

	平均乳量 (Kg/日)	10週 20週 43週			43週			最高乳量 (kg)	最高乳量 到達日
		合計 乳量 (Kg)	合計 乳量 (Kg)	合計 乳量 (Kg)	乳脂率 (%)	無脂 固形 分率 (%)	乳蛋 白率 (%)		
試験区	32.1	2,752	5,331	9,785	4.0	8.7	3.2	45.1	49.0
対照区	32.7	2,778	5,400	9,973	3.8	8.5	3.2	46.2	47.4

### ☆ 活用面での留意点

短縮した乾乳期全期を乾乳後期の飼料で飼養しても大きな問題がないことから、乾乳期間を短縮する乳牛の飼養管理に活用できます。しかし、初産の乳牛についてはさらに検討が必要です。詳細は、岐阜県畜産研究所 酪農研究部吉村義久 (TEL: 0573-56-2769) にお問い合わせください。  
(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)